

- 一人一人の発言を大切に受け取り言葉に込められた気持ちを互いに受容できるようにする。
- 役割演技を通して、日常の自分自身の言動に気づかせる。
- お互いの演技を肯定的に受け止め合い、そうせざるを得なかった気持ちに共感できるようにする。



蛍の気持ちを役割演技で表現！

段階	学習内容・活動	時間	指導上の留意点	集団に対する指導援助	個人に対する指導援助	検証の観点
深 め る	(3) 飛べない蛍と助ます蛍たちの気持ちを役割演技によって表現し、それぞれの気持ちについて話し合う。 ① 蛍たちの気持ち ○ 飛べない蛍 ○ 助ます蛍	(10)	○ 役割演技によって相互の気持ちを体験的にとらえさせる。 ○ 抽出児童を中心に意図的に指名して進める。	○ 飛ぶことのできる蛍になって、飛べない蛍へどのようにかわるかを役割演技で表現させ、互いに考え合う活動を通して自身の自分自身の言動に気づかせる。 ○ 一人一人の発言を大切に受け取り、言葉に込められた気持ちを互いに受容できるようにする。 ○ お互いの演技を肯定的に受け止め合い、そうせざるを得なかった気持ちを共感できるようにする。 ・ とっても心配しているんだね。 ・ やさしいね。 ・ 勇気がわくね。 ・ かんばろうって思うね、きっと	○ M男は、行動が粗暴である。そのため、M男が役割演技をする過程では少し投げやりな言動することが予想される。でも、その言動を否定的に扱わず、M男がそう表現せざるをえない気持ちを受容し、M男の言葉に隠されたM男のやさしさを他の児童に気づかせるようにする。 ○ Y子は、気弱なところがあるが、なににも協力的である。役割演技でも素直に表現するものと思われる。Y子の精一杯表現する姿とともに女の子のやさしさを他の児童が認めるように支持し、自分の言動に自信を持てるようにする。	○ 役割演技で、それぞれの持ち味を発揮していたか。 ○ 発表者の意見を肯定的に受け止め、そのよさを認めていたか。

図IV-2 指導過程（一部抜粋）

#### ④ 授業実践についての考察

##### ア 児童の持ち味を發揮させる

イメージ深化による身体表現は、一人一人の思いを身体を通して表すという点で、言葉による表現に抵抗のある児童にとっても効果的であると同時に、相互の心を開かせる場として有効であると考えられる。身体表現に込められる気持ちを、互いに受け止め、「……のようにしたい」と思っているのだね、と動きの中から言葉を見つける活動へと発展した。発言の少ないY子にとっても適切な手立てだったと考える。

##### イ 意見を肯定的に受け止め、互いのよさに気づかせる

M男の発言は時として乱暴に聞こえ、受け入れられない傾向がある。しかし、表現に込められる思いを肯定的に受け止めることにより、普段気づかずにいたM男のよさに気づくことができた。こうした受容が相互の受容を高め、意欲を盛り上げたと考える。

##### ウ 役割演技により、自分自身に気づかせる

飛べない蛍や飛べる蛍を自由に表現する活動では、演技に表れる気持ちを大切にしたい。

「困ったなあ、どうしよう。」「いっしょうけんめい練習すればきっととべる。」「ぐずぐずしているからとべないのさ。」「かわいそうに、どうしたらいいの。」等、一人一人の表現から、その子自身の気持ちを互いに読み取り、「あっ、そういえば、自分にそっくりだ。」などのように気づくことができたと思う。

##### ⑤ 他の教育活動における実践

肯定的に受け止めることを授業以外の日常の教育活動の中で大切にしながら援助に努めた。否定的に見られがちだったM男に対しても児童たちの見方が変わった。イラスト好きなM男の絵が加虐的なものから温和な夢と希望にあふれるものへと変わった。イラストのコーナーにはいつもM男の絵があり、友人たちの興味を引いている。

Y子は日記を通して対話するようになり、心を